

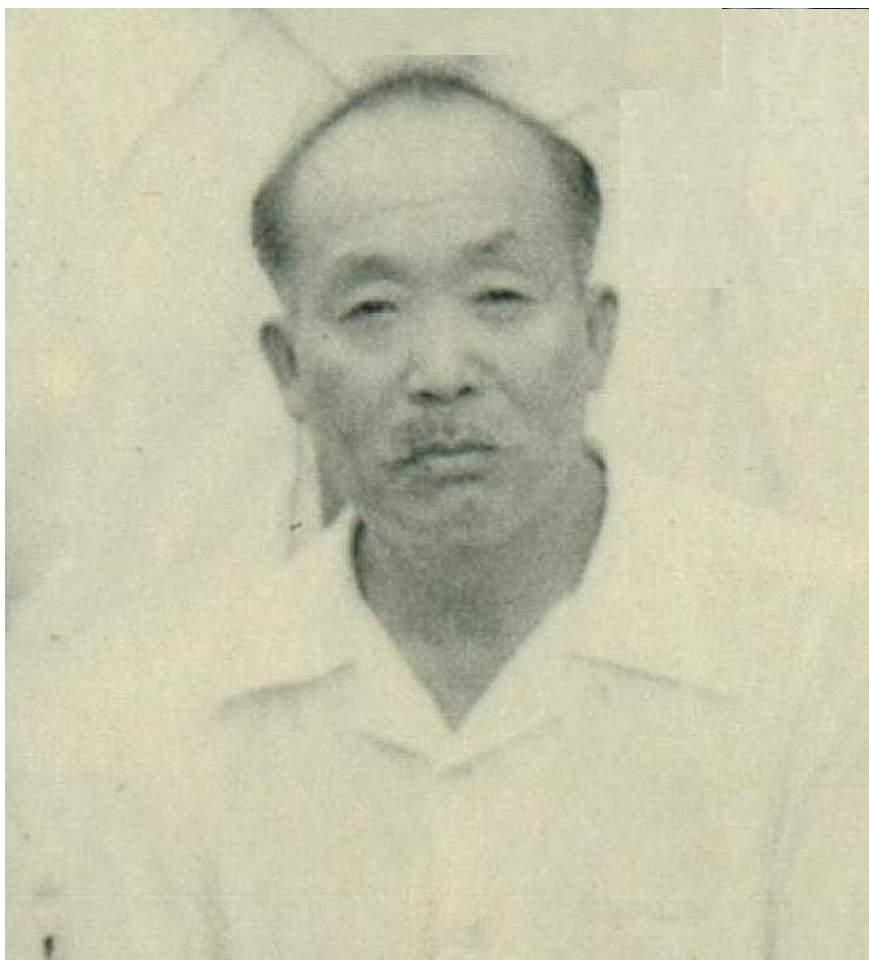
疎開作家がいた村

# 太田村の大澤雅休展

題字 上田 北山

撮影 森川 辰夫

# 大澤 雅 休



会期 平成22年11月6日～14日

会場 砺波市立砺波美術館市民ギャラリー

主催 大澤雅休展実行委員会

後援 砺波市教育委員会 砺波市立太田公民館 NPO砺波土蔵の会  
北日本新聞社 エフエムとなみ

ごあいさつ

大澤雅休展実行委員長 入道 忠靖

大澤雅休（1890～1953）先生は、昭和 20 年 4 月、東京都渋谷区幡代国民学校の集団学童疎開の児童を引率して富山県東礪波郡太田村久泉「光圓寺」に来られ、同年 11 月に東京へ戻られるまでの短い期間でしたが、地域の人達と多くの交流を持ち、多くの墨蹟を残されました。

雅休先生は群馬県生まれで、小学校に奉職、「綴り方教育」を推進しながら短歌にも傾注し、大正 11 年「野菊短歌会」を創設されました。

また丹羽海鶴、比田井天来に書を学び、昭和 12 年には大日本書道院 1 回展で最高特別賞を受賞され、昭和 16 年には、大日本書道院総務審査員となりました。

疎開で太田に滞在中は、そのような素振りを伺うこともなく、誰もがそのような偉大な書家とは知りませんでした。

昭和 24 年、板画家棟方志功との出会いがあり、共に日本書道を現代芸術に高めるための挑戦が始まり、それ以後、何度か福光の棟方志功を訪ね、さらに親交を深められました。

平成 2 年 11 月、太田公民館まつりでの「大澤雅休遺墨展」から早 20 年の歳月が過ぎました。太田地区内には疎開中の作品、戦後の作品が散在しており、この程、生誕 120 年を記念してそれらの作品を今一度、展示鑑賞して書道の普及と書道芸術の追及に情熱を傾けた大澤雅休に触れたいと思います。

この雅休展の開催にあたりまして、貴重な作品の調査、出展にご協力いただいた皆様やご支援頂いた各関係団体の皆様に感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成 22 年 11 月

## 謝辞

本展覧会の開催にあたり、ご協力を賜りました関係各機関および関係者の皆様に深く感謝の意を表します。

(五十音順、敬称略)

砺波市立太田公民館

安念 幹倫(砺波市立太田公民館文化部長)

金子 容士(太田郷土懇話会員)

金平 正二(元太田公民館長)

浄土真宗本願寺派 光圓寺

真宗大谷派 浄光寺

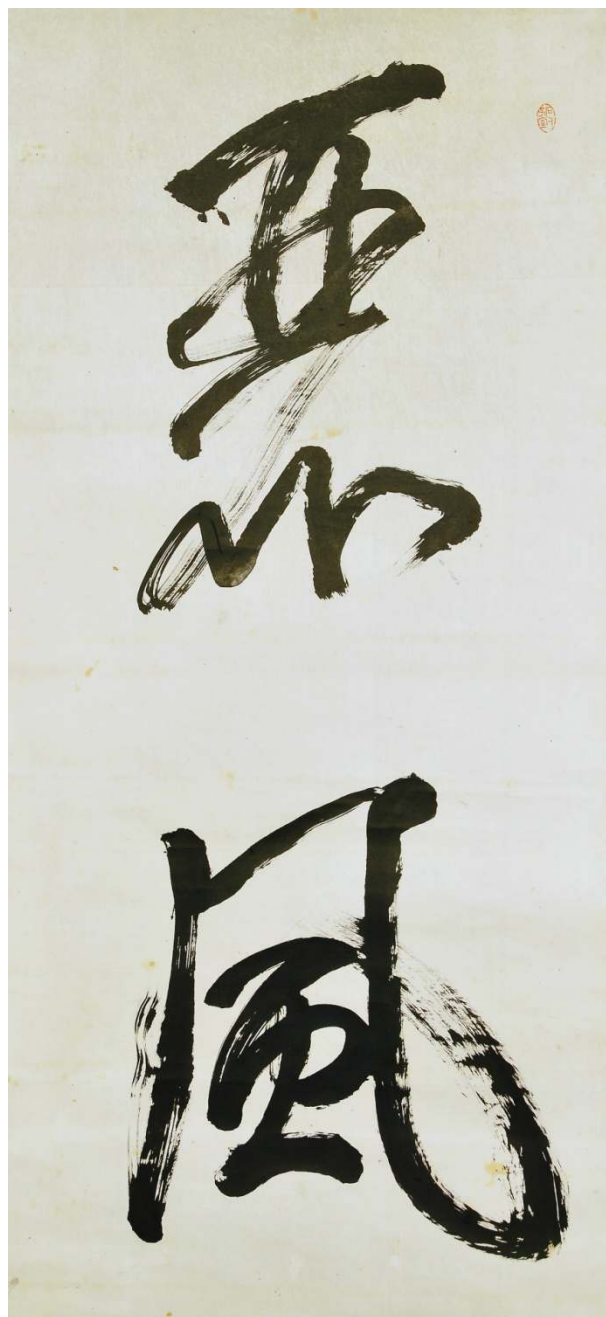
特定非営利活動法人 砺波土蔵の会

文房四宝 信盛堂

砺波野.jp <<http://tonamino.jp>>



1—良俗



2—麗風



3—樂業



4—無



5—寒巖一樹松



6—廓然無聖





7—飛天



8—精勵

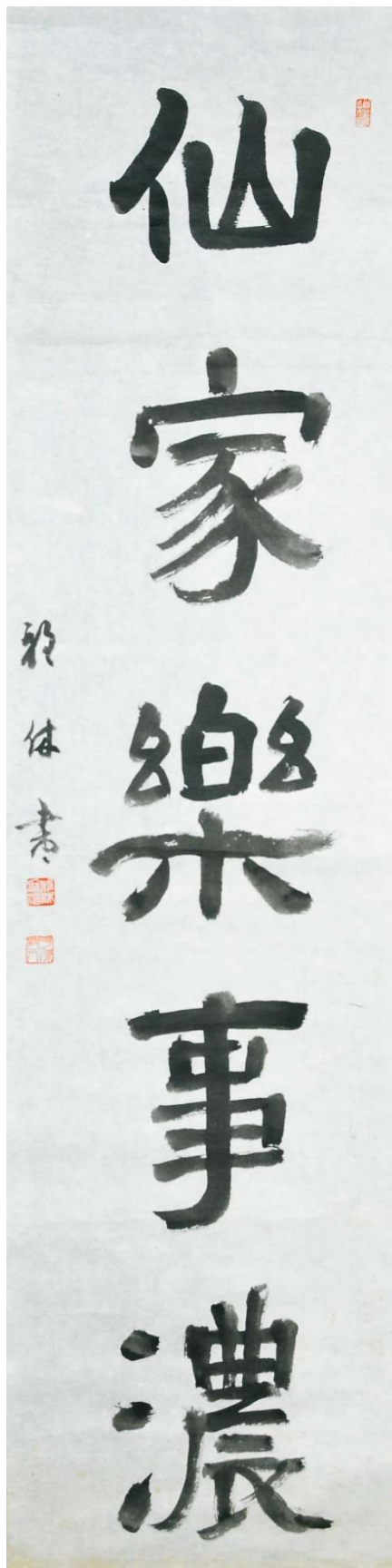




9—天翔



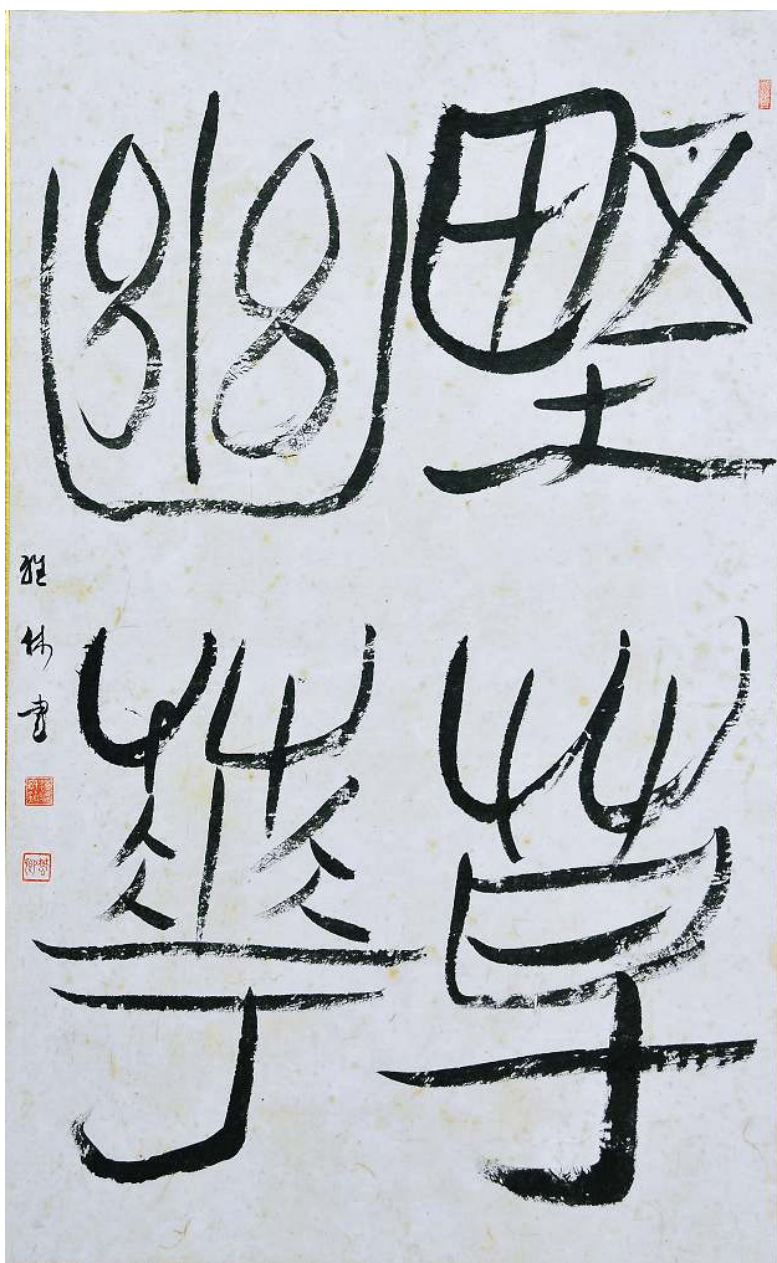
10—散懷



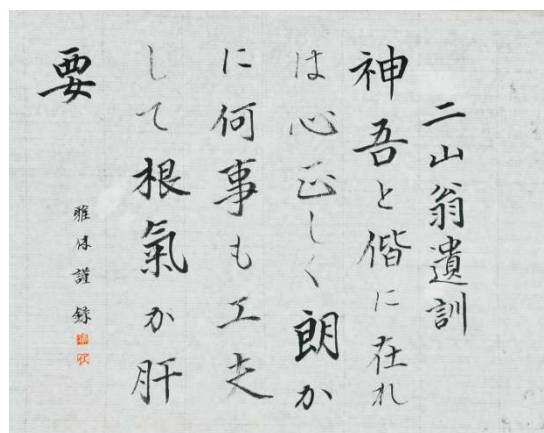
11—仙家樂事濃



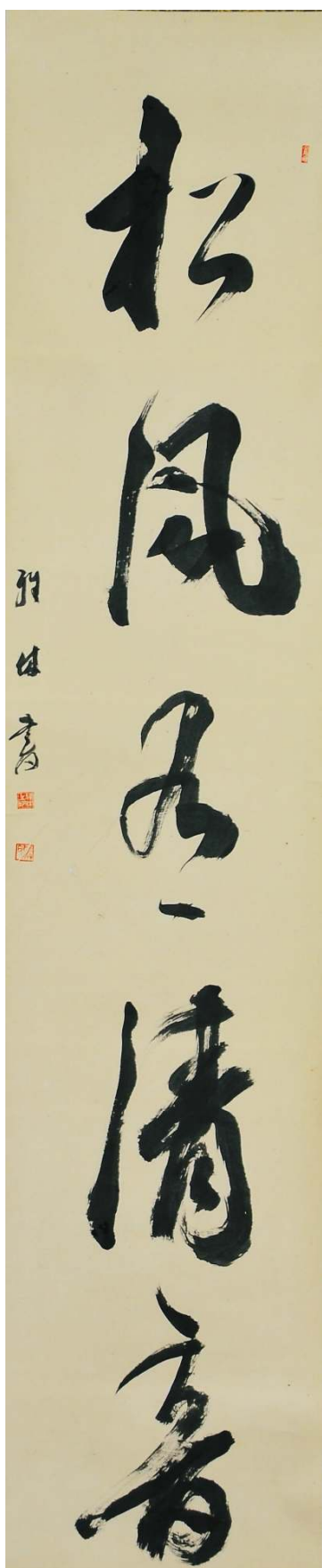
12—心清意自写



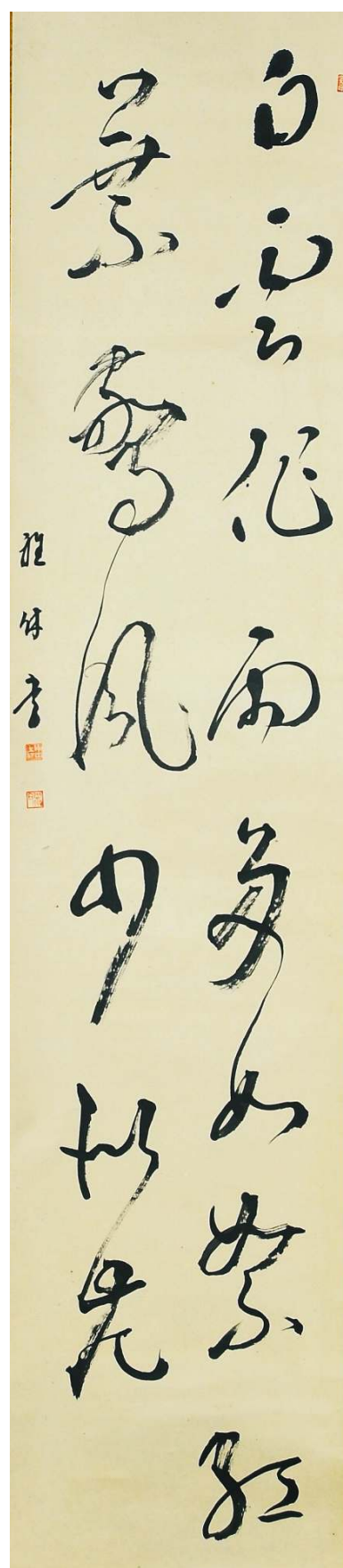
13—野草幽華



4—二山翁遺訓

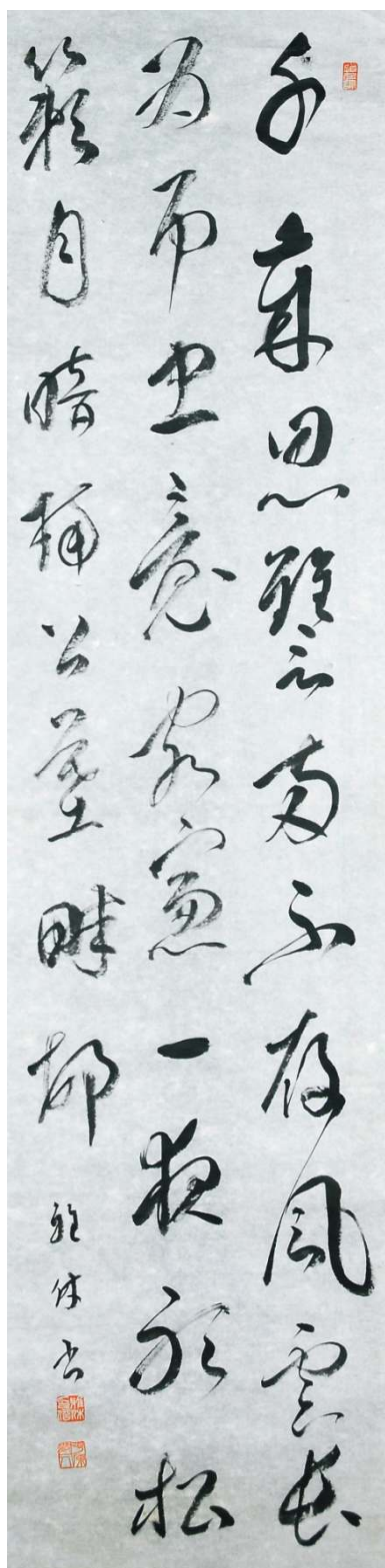


15—松風有清音



16—白雲作雨多如絮 紅葉驚風少似花





17—(七言絕句)

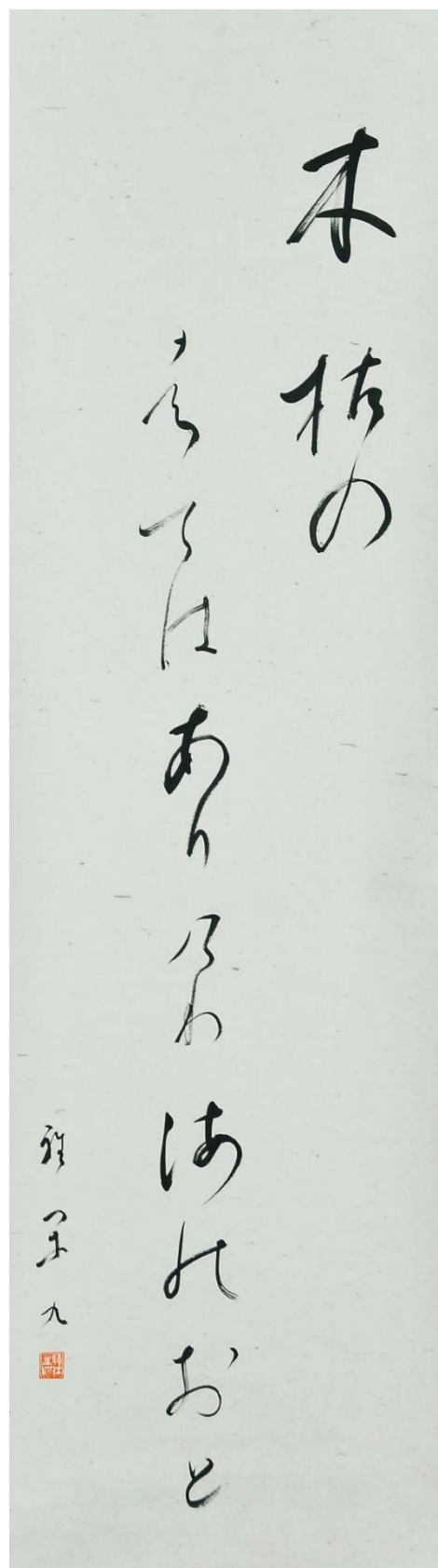
千歲恩讐兩不存 風雲長為布忠魂  
客窓一夜聽松籟 月暗楠公墓畔邨



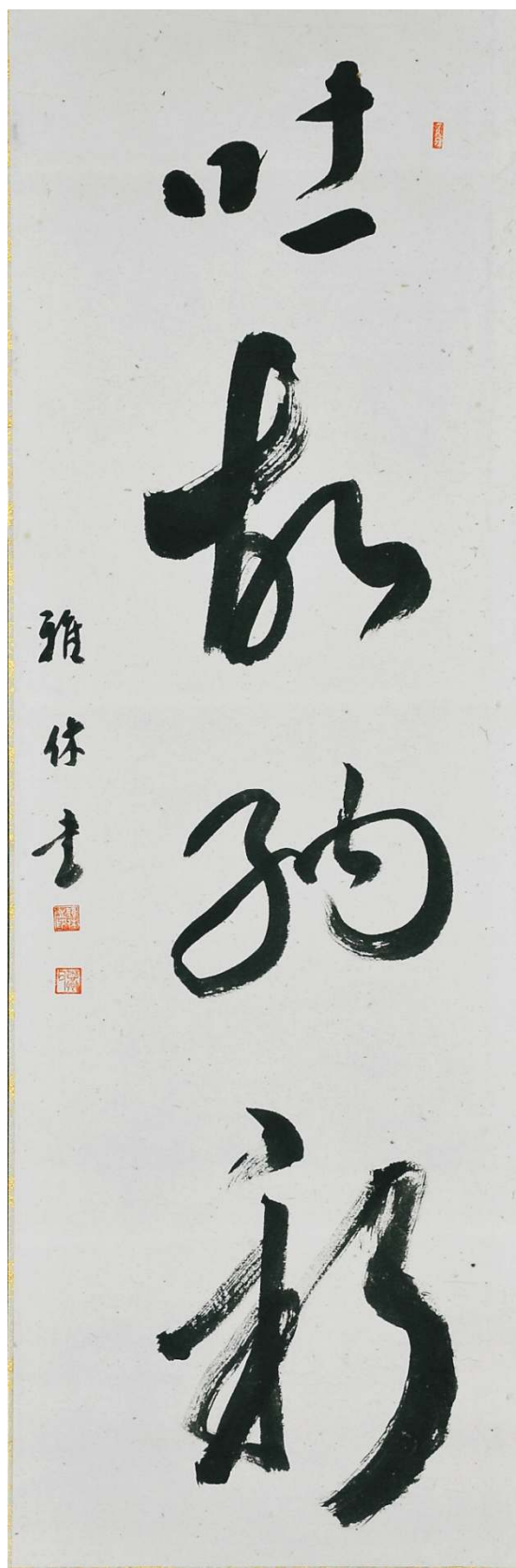
18—月白風清



19—不老門前日月遅



20—木枯の はてはありけり 海のおと

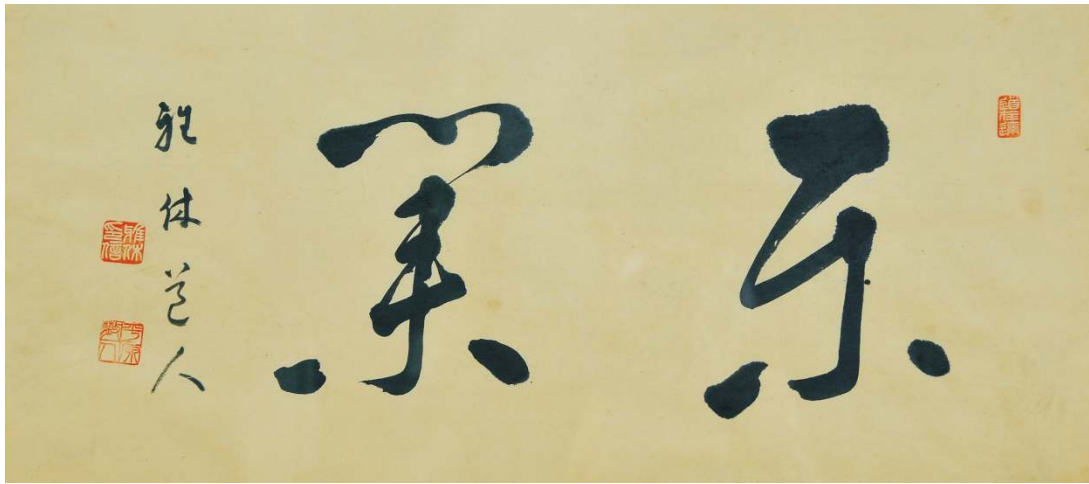


2 1 — 吐故納新



2 2 — 至道無難

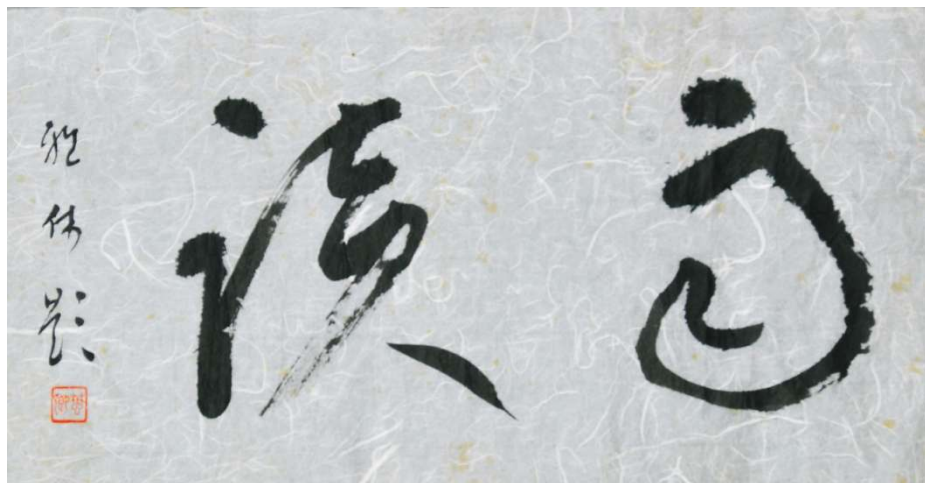




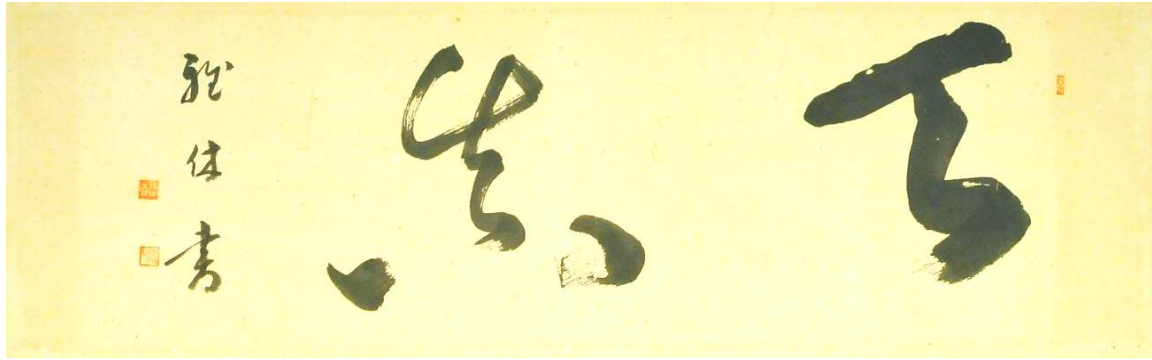
23—樂業



24—樂其業



25—雨讀



26-天真



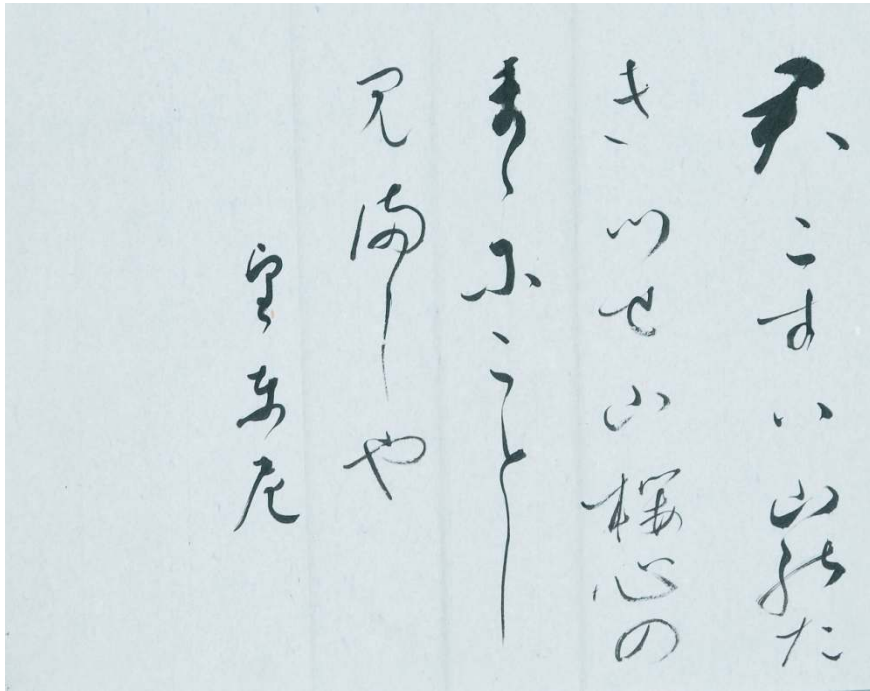
27-深山大沢実生龍蛇



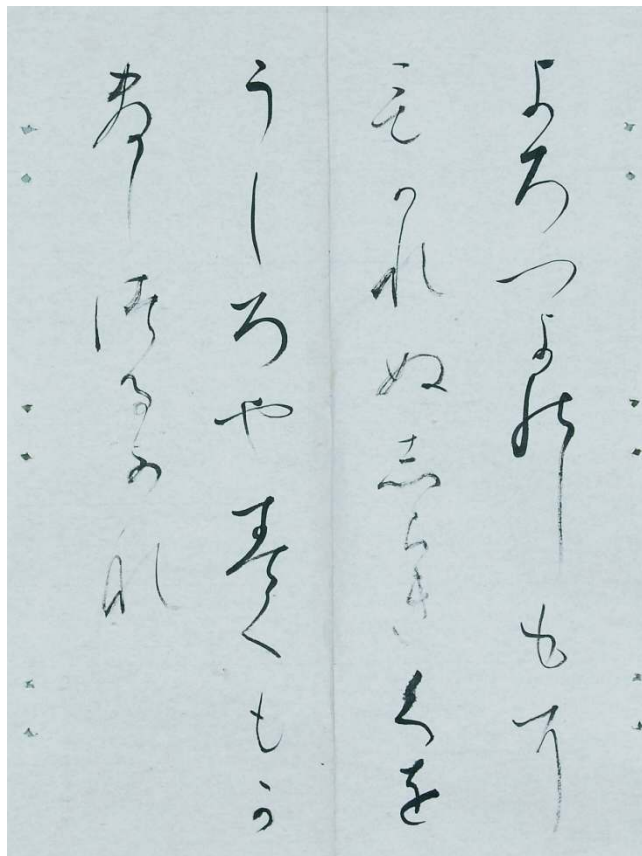
28-萬葉歌(おがみかは)







30—君子ずば 山の滝つ瀬 山桜 心のまゝに 今年見ましや 望東尼

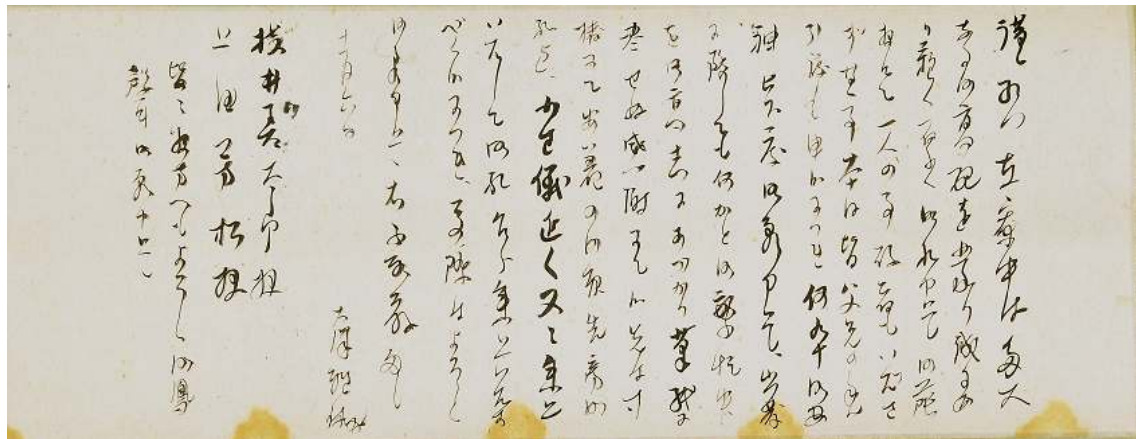


31—萬世の 霜にも枯れぬ白菊を うしろ易くも かざしつる哉

32一手紙Ⅰ 昭和20年11月6日（消印:昭和20年11月8日）

差出先：東京都渋谷区代々木初台町 幡代国民学校

あて先：富山県東砺波郡太田村祖泉 横井善太郎 様、上田義松 様

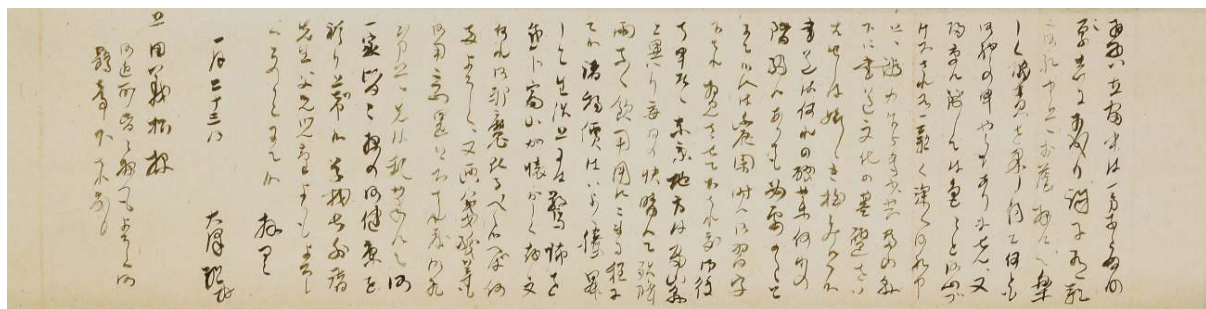


（注）上田 芳松とあるのは、上田 義松の間違いである。

33一手紙Ⅱ 昭和21年1月26日（消印：昭和21年1月28日）

差出先：東京都目黒区下目黒2ノ4の1 平原社

あて先：富山県東砺波郡太田村祖泉 上田義松 様

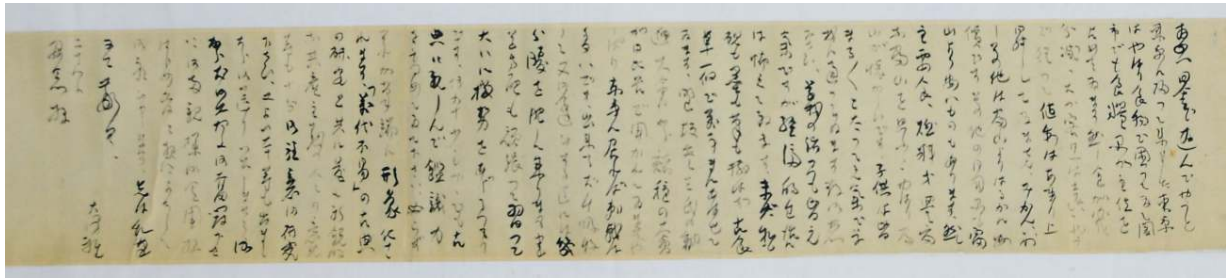




34—手紙Ⅲ 昭和21年1月28日（消印：昭和21年1月31日）

あて先：富山県東砺波郡太田村太田 安念金之介様

差出先：東京都目黒区下目黒2ノ4の1 平原社 大澤雅休



35—手紙Ⅳ 昭和21年3月5日（消印：昭和21年3月6日）

あて先：富山県東砺波郡太田村太田 安念金之介様

差出先：東京都目黒区下目黒2ノ4の1 平原社 大澤雅休

